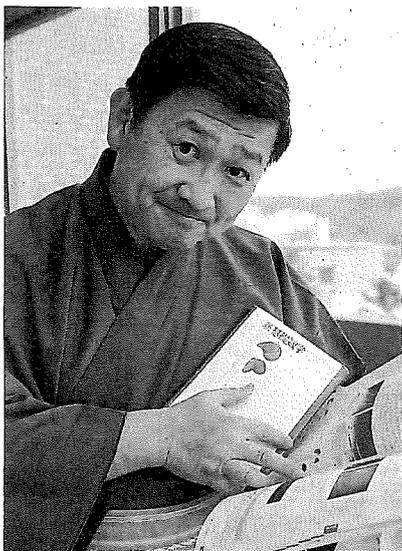


62歳の釧路高専1年生で落語研究会座長

たかぎ とおる
高木 亨さん



ひと

2020

昨年4月に釧路高専(釧路市)に入学した62歳。国立高等専門学校機構(東京)によると、国内最高齢の現役高専生だ。落語歴は約40年。高専内に昨年10月設立した落語研究会(落研)で座長を務め、孫の年ほど離れた部員に笑いを伝授する。

釧路市出身。小樽商大時代に通った町の空手道場の練習が厳しく、「バランスを取るため大学の落研に入部した」と笑う。柳家小三治の大ファン。卒業後は釧路市役所に入り、水産、港湾、教育と幅広く仕事をこなした。一昨年春に退職。子ども用パソコン学習支援システムを開発しようと、半年間の受験勉強を経て釧路高専に合格した。

場を温め、相手の緊張をほぐす落語の技術が「社会人生活で生きた」と振り返る。落研の設立は「落語を通じて『語れる技術者』になつてほしい」との思いから。部員は1年生を中心に10人で、16歳が多い。「笑いのツボが違う、タイムトラベルしたよう」と戸惑いながらも、「高木さん」と親戚のおじさんのように慕われている。

学年成績は総合2番。ネタだけでなく勉強方法も教える。1月上旬の寄席では「還暦高専生」と題し、受験勉強や体育の授業に苦戦する自らの姿を漫談で笑わせた。春には新入生勧誘のための落語を披露する予定だ。

落研がある高専は全国に3校で、道内は釧路のみ。「学生には場数を踏んで話芸に親しんでほしい。ただ落語だけに、落第はしないですね」(今井裕紀)

高木亨氏は本学OBです。